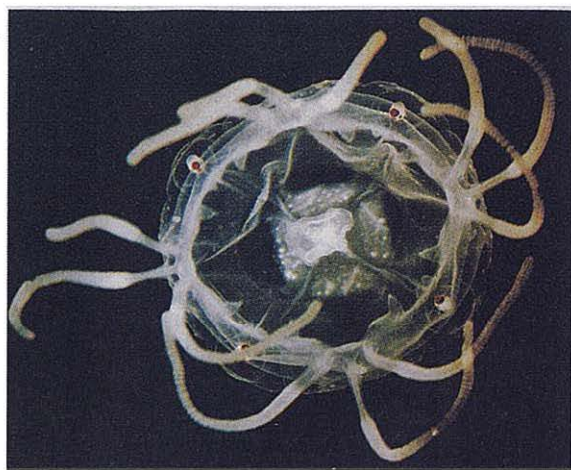


ミツデリッポウクラゲ



△
有性生殖方法がユニークなミツデリッポウクラゲ（長崎県佐世保産の薬品固定標本）

本種の成体は厚みの薄いハート形の生殖巣を持ち、向き合った1対の生殖巣が4組、傘の中央に形成される。画像の個体はまだ若いので、残念ながら生殖巣は小さい。本種は体全体が透明なので自然界では肉眼では見つけにくい。

有性生殖の方法もユニークで、雄は精子を詰め込んだカプセルのような精包（せいほう）をつくり、高等動物で見られる交尾のような行動をとる。すなわち雌にアタックし、精包をしっかりと手渡すのである。傘の縁の4力所にあるのがクラゲの中では最も複雑な感覚器である。これをくぐるくと動かして光や位置を感じると同時に体のバランスも取っての行動であろう。そして、雌の体内で受精が起こり、子どもであるプラヌラ幼生が体内で発育する。

（京都大学准教授）

久保田 信

番外編8



ミツデリッポウクラゲのリップポウは傘が立方体をしているからで、ミツデとは3本ずつの触手が傘縁の決まった4力所から伸びている特徴から

きている。この種は刺胞動物を系統分類する際、「門」のすぐ下の「綱」を決定する重要な役割を果たした。それはこの仲間では世界で初めて生活史が解明され、これまで所屬していたエチゼンクラゲやミズクラゲなどの鉢クラゲ綱から独立した新綱として取り扱われるようになったからだ。ポリプからクラゲが直接できるという特徴があり、昆虫で言えば、チョウやカブトムシの完全変態と似た現象とも言える。